

巻頭言

本研究所の前身である金沢大学がん研究所は、昭和 47 年に設立されて以来、今日までに、基礎研究と臨床研究を一体的に推進して参りました。これらの成果を踏まえ、がんによる死亡の主要な原因となる「転移」や「薬剤耐性」などのがん進展機構の本態を解明し新規治療への道筋を示すことを、本研究所の重要な目的と位置付けています。この目標に向かって「がん幹細胞研究」「がん微小環境研究」「がん分子標的探索」「がん分子標的医療開発」の 4 つの研究プログラムに所属する 12 の研究分野が一丸となって研究を推進しています。さらに、平成 23 年度より「がんの転移・薬剤耐性に関する先導的共同研究拠点」として全国共同利用・共同研究拠点として文部科学省より認定され、同時に研究所名称を「がん進展制御研究所」に変更して研究拠点活動を展開しています。

全国の共同利用・共同研究拠点の中でも、唯一のがんに特化した拠点としてがん研究領域の発展に貢献すべく、研究所の機能強化を鋭意進めているところです。毎年、外部研究者との共同研究採択課題数が増加していますが、今年度は過去最大の 54 件を採択して実施しました。また、今年度より国際共同研究の公募も行い、韓国、中国、シンガポール、タイなどアジア各国のがん研究施設からの応募課題も採択し、多くの重要な研究成果が得られました。さらに、毎年開催する共同利用・共同研究拠点シンポジウムを、今年度は日本癌学会シンポジウムとして開催することで、若手研究者を含む多くの学外のがん研究者に参加および発表して頂き、本研究所をハブとしたがん研究者ネットワーク構築の推進に、少しずつですが手ごたえを感じているところです。また、女性がん研究者の育成も研究拠点としての重要な役割と考えています。今年度は、女性がん研究者の活躍を推進するために、「金沢女性がん研究者フォーラム」を初めて開催し、全国のがん研究領域を代表する女性研究者を招聘し、研究発表やパネルディスカッションを行いました。

研究所間の連携では、韓国ソウル大学がん研究所および中国復旦大学がん研究所との連携協定をもとに継続して合同シンポジウムを開催し、新たにシンガポール大学がん研究所との連携に向けた研究交流を始めました。国内においては、北海道大学遺伝子病制御研究所との第 3 回合同シンポジウムを札幌で開催し、国立がん研究センター研究所との連携に向けた研究カンファレンスを開始しました。以上のがん研究者ネットワークおよび研究所間連携を強化することにより、本研究所はがん研究領域における国際的な中核的研究施設となることを目指して活動を推進しています。ここに、本年度の研究所内各研究分野の成果を取りまとめましたので、業績集として報告致します。

金沢大学がん進展制御研究所長 大島正伸